

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年10月19日(2006.10.19)

【公開番号】特開2001-139781(P2001-139781A)

【公開日】平成13年5月22日(2001.5.22)

【出願番号】特願平11-323871

【国際特許分類】

C 0 8 L 67/00 (2006.01)

C 0 8 L 67/02 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 67/00

C 0 8 L 67/02

【手続補正書】

【提出日】平成18年9月4日(2006.9.4)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

ポリエチレンテレフタレート系樹脂が有し得る他のジカルボン酸単位としては、例えばイソフタル酸、2,6-ナフタレンジカルボン酸、2,7-ナフタレンジカルボン酸、1,4-ナフタレンジカルボン酸、ジフェニルジカルボン酸、ジフェノキシエタンジカルボン酸、ジフェニルエーテルジカルボン酸、ジフェニルスルホンジカルボン酸などの芳香族ジカルボン酸；1,3-シクロヘキサンジカルボン酸、1,3-シクロヘキサンジカルボン酸、1,4-シクロヘキサンジカルボン酸などの脂環式ジカルボン酸；マロン酸、ジメチルマロン酸、コハク酸、2,2-ジエチルコハク酸、グルタル酸、2,2-ジメチルグルタル酸、アジピン酸、2-メチルアジピン酸、トリメチルアジピン酸、ピメリン酸、アゼライン酸、セバシン酸、スペリン酸などの脂肪族ジカルボン酸；およびそれらのエステル形成性誘導体などから誘導されるジカルボン酸単位を挙げることができる。

ポリエチレンテレフタレート系樹脂は上記した他のジカルボン酸単位を1種のみ有していても2種以上有していてもよい。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 7】

ポリエステルブロック共重合体のソフトセグメントを構成する脂肪族ポリエステルは、主たるジカルボン酸単位が炭素数6～14の脂肪族ジカルボン酸単位であって、且つ主たるジオール単位が炭素数5～12の脂肪族ジオール単位である必要がある。かかる条件を満たさない場合には、ポリエステルブロック共重合体の製造が困難になるか、たとえ製造できたとしてもポリエステルブロック共重合体の内部でランダム化反応が生起して、本発明の目的とする成形品を得ることが難しくなる。ジカルボン酸単位を構成する炭素数6～14の脂肪族ジカルボン酸単位の割合は、70モル%以上であることが好ましく、80モル%以上であることがより好ましく、90モル%以上であることがさらに好ましい。また、ジオール単位を構成する炭素数5～12の脂肪族ジオール単位の割合は、70モル%以上であることが好ましく、80モル%以上であることがより好ましく、90モル%以上で

あることがさらに好ましい。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0044

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0044】

参考例5：ポリエステルブロック共重合体（TPEE-2）の製造

参考例2で得られたポリエチレンテレフタレート-2の60重量部と、参考例3で得られた脂肪族ポリエステル40重量部を反応器に仕込み、270の温度で0.3mmHgの減圧下に80分間反応させた。その後、リン化合物（旭電化工業株式会社製 AX-71）を添加して10分間減圧下で攪拌し、ポリエステルブロック共重合体（TPEE-2）を得た。このポリエステルブロック共重合体の固有粘度および水酸基濃度を表2に示す。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0045

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0045】

参考例6：ポリエステルブロック共重合体（TPEE-3）の製造

窒素気流下に、ジメチルテレフタル酸41重量部、1,4-ブタンジオール23重量部、ポリテトラメチレンゴルコール（数平均分子量1000）40重量部およびテトライソプロピルチタネート触媒0.05重量部を反応器に仕込み、常圧下に200～250の温度範囲で徐々に昇温しながら、生成するメタノールを系外に留去しながら反応を行った。計算量のメタノールが留出した時点から徐々に減圧度を高めながら反応を続け、ポリエステルブロック共重合体（TPEE-3）を得た。このポリエステルブロック共重合体の固有粘度および水酸基濃度を表2に示す。